

第2回 篠山再生市民会議 会議録(要旨)

(記録：企画課)

日 時：平成19年8月10日(金) 13:30～16:40

場 所：篠山市民センター 催事場

出席者：篠山再生市民会議委員(杉尾委員欠席) 行政職員、庁内調整会議職員

傍聴者：9名

会議次第：

1 開会

2 あいさつ

3 報告事項

(1) 集中改革プランの平成18年度実績報告(速報版)について…資料1

(2) 財政再生の第1次取り組み検討項目について…資料2

(3) 前回質問事項に対する資料提供について

(ア) 財政収支見通しの科目別の内訳について…資料3

(イ) 一般会計から特別会計への資金の流れについて…資料4

(ウ) 県内における同規模団体部門別職員数について…資料5 資料5-1

<休憩>

4 協議事項

(1) 各委員からの提案改革項目について…資料6・資料6-1・資料6-2

(2) 今後の再生市民会議の進め方について

5 その他

(1) 次回の開催予定

決定事項

- ・今後、第1次再生計画に反映可能な項目として、人件費、補助金、委託料、施設管理について議論していく。
- ・次回の議題としては、人件費、賃金をテーマにする。
- ・市民会議で要望の出た必要資料、議題をもとに、運営委員会で次回会議に必要な資料等を協議し、事務局に準備を求める。
- ・次回(第3回)は8月24日(金)13:30から「市民センター多目的ホール」で、次々回(第4回)は9月5日(水)13:30から「丹南健康福祉センター研修室」での開催を予定。

議事要旨

2 あいさつ

(議長) 今日から実質的な再生会議の議論に入って行きたい。資料についてはみな

さんの要望があったものを優先的に用意してもらっている。資料だけでもたくさんあるが、財政の勉強をしながら、みなさんからいただいた提案を元に問題を集約していかねばならない。

3 報告事項

(1) 集中改革プランの平成18年度実績報告(速報版)について…資料1

【事務局より説明】

(2) 財政再生の第1次取り組み検討項目について…資料2

【事務局より説明】

(3) 前回質問事項に対する資料提供について

(ア) 財政収支見通しの科目別の内訳について…資料3

【事務局より説明】

(イ) 一般会計から特別会計への資金の流れについて…資料4

【事務局より説明】

(ウ) 県内における同規模団体部門別職員数について…資料5・資料5-1

【事務局より説明】

< 質疑 >

(議長) 資料3や4について、一般財源と言われる部分だけを取り出して予算の数字を出しているが、総額で財政規模がどれ程あるのかわかる方がよいと思う。次回以降、例えば歳出の費目の財源内訳について地方税収、地方交付税、国庫支出金、地方債等がそれぞれいくらと分けることはできないか。

(A委員) 市のホームページに掲載されているバランスシートを見たが、有形固定資産について、減価償却を算定したら実際にいくらになるのか。また、集中改革プランで税の未収金回収の目標額を1千万円としているが、バランスシートで4億円の未収金がある状況で、目標が低すぎるのではないか。年度末時点の未回収の資産として残っているが、事情があって回収できていないのか、悪質な滞納なのか。行革に繋がられるような回収の見込みがあるものは実際どれだけあるのか内訳が知りたい。累積して焦げ付き、回収の見込みもないものは切ってしまうえば現実の資産に近くなると思う。

(事務局) 集中改革プランの目標は、実効性のある額として挙げている。徴収率の目標も挙げており、目標値に沿って実施していきたいと考えている。徴収の詳細い状況については、今後、資料を提出したいと思う。

(B委員) 篠山市の徴収率は全県でも2番目くらいで、それでも未納ということは、なかなか徴収しにくいものだと思う。

(副議長) 先日の新聞で、自治体の税の徴収率一覧があり、篠山市は95.4%というこ

とすごいと思っていたが、未収金が4億円あるということはこの場で初めて知った。そういう部分をもっと公表してもらいたい。

(議長) 集中改革プランでは単年度で1千万円という目標があるが、実際は300万円弱しか回収できていない。目標額の積算根拠はどこにあるのか。

(事務局) 市民税、固定資産税、軽自動車税について設定した目標徴収率から積算した金額が1千万円程度であった。

(C委員) 特別会計でも未収金が3億余円あるので、合計7億円あるのではないか。

(議長) 未納、滞納の問題も今後焦点を当てていく問題の一つになるかもしれない。

(D委員) 資料3の科目内訳を更に細分化したものが欲しい。例えば、需用費の消耗品、電気代それぞれにいくらかかっているかわかるようにならないか。

(事務局) 資料3はそもそも平成19年度の収支見通しということで、歳入歳出のバランスを見るために作られた資料なので詳細な区分にはなっていない。より具体的な中身が入った資料については平成18年度決算ベースで、財源内訳を考慮せず、単純に決算に上がった額であれば作成できる。

(議長) 平成18年度決算ベースで、歳出項目を細分化してもらおうというのが一つと、先ほど言ったように、それぞれの支出についてどの財源を充てたのかわかるようにしてもらえないか。

(E委員) 税の徴収については税務課が中心になっていると思うが、徴収体制はどうなっているのか。人数を増やせば効果は上がるのか。

(事務局) 税務課では徴収業務を5名が担当しているが、加えて全部署の管理職以上で特別徴収として年に数回、夜間や休日に訪問徴収に当たっている。特別徴収に出た感想だが、相当厳しいと感じている。

(E委員) 適正な人員配置を行うことで、余剰の人員ができれば、例えば市税の徴収に当たってもらう事で徴収率の向上ができないかと思う。団体事務や、補助金の会計事務についても、市の職員が担当しないようにすれば、その分他の業務に配置することも考えられ、人件費を全体的に少なくできるのではないか。

(F委員) 資料3で公債費の中身は何か。

(事務局) 資料3の公債費は歳出なので、いわゆる借金返して、今までやってきた事業でできた借金の元金と利子の返済分で52.8億円である。

(F委員) 資料4の下水道事業特別会計のところに公債費償還分とあるが、これとの関係はあるのか。

(事務局) 資料3の公債費については普通会計において借金をした分についてのみ上がっているのので、資料4の下水道事業特別会計にある公債費償還分は含まれていない。

(F委員) 新たな公債発行は含んでいるのか。

(事務局) 今後行う予定の事業の新規発行分を含んでいる。

(F委員) 投資的経費とは何か。

(事務局) 道路工事など公共事業の市の負担分である。総事業費のうち、例えば国庫補助金や地方債、市債を充当した残りの分なので、事業規模としてはもっと大きな事業をすることになる。

(F委員) 資料4の国保特別会計について、赤字補填がどれだけあるのかわかりやすい資料が欲しい。

(事務局) 国民健康保険特別会計のうち、保険事業については篠山市の場合、保険料として保険税を徴収しており、国の基準で財政安定化支援や人件費、事務費について一般財源からの繰り出し基準が設けられているが、赤字補填はなく、赤字であれば保険税を上げることになる。直営診療所は保険事業とは別で、医療施設のないところに市の施策として医師や看護師を配置し運営しているので、市から赤字補填をしている。国民健康保険の診療所ではない今田診療所への繰出しも合わせると、8,100万円以上の赤字ということになる。

(B委員) 保険税については、篠山市は低い水準で推移しているようだ。

(G委員) 委員から改革の項目を出しており、市の第2次行革大綱や集中改革プランの項目と重なる部分もあると思うが、市民会議独自でやっていけばいいのか。

(事務局) 第2次行政改革大綱は平成19年度が終期であり、市民会議では平成20年度から3年間の次期大綱に繋がるような意見を提案いただければと思う。

(C委員) 委託業務の委託先と委託内容、委託料の一覧が欲しい。

また、前回配布された資料No.6の施設維持管理経費一覧表で、チルドレンズミュージアムの委託料や西紀支所の電気代について内訳を教えて欲しい。

(事務局) 資料No.6は施設の維持管理経費をあげているので、チルドレンズミュージアムについて施設管理以外に委託している人件費は含んでいないし、他の施設についても市職員の人件費は含めていない。西紀支所については隣接している福祉センターの電気代も含めている。

(C委員) それぞれの施設についてどれだけコストがかかっているのか、人件費も含めて考慮できる資料をもらえないか。

(議長) 資料2の第一次取り組み項目について、効果額は上乘せされていくのか。

(B委員) 第一次取り組み項目の中で効果額が未確定な部分もあるが、多くて5億円程度と見ている。現時点で検討のテーブルに載っているものなので、今後第2次、第3次と検討を加え、項目も増えるし、具体的金額も入っていくと認識している。

4 協議事項

(1) 各委員からの提案改革項目について…資料6・資料6-1・資料6-2

[事務局より説明]

- (議長) 皆さんからいただいた提案を事務局でひとまず分類したもののだが、他の分類の方がよいという項目があれば指摘いただければと思う。来年度の予算に反映できそうな短期的な提案と、中長期的な制度改革や組織改革といった効果がすぐには表れにくい、少し先を見た提案とが混在しているので、振り分けが必要かと思う。今後の再生市民会議の進め方についても白紙状態だが、今日を含めて次回からどういう議論をしていけばよいか集約していきたい。
- (H委員) 篠山市の第1次取り組み検討項目にしてもほとんど人件費で占めているが、人件費の削減をしていく中で、まずは効果が大きいところに取り掛かり、内容としては市役所内部で改革できる部分を優先的に行い、市民サービスに影響が波及する部分についてはその次の段階で手を付ける方がよいと思う。
- (D委員) 時間的に余裕がないので、まずは来年度予算に反映できるような項目を出して、その中で効果額が大きいものに取り掛かるというのはどうか。
- (C委員) 例えばまず組織改革を含めた人件費について集中的に議論して、次に物件費や管理経費の見直しや施設について、それから特別会計のこと、そして歳入の増加、確保をどうするかといった項目立てをして会議を進めてはどうか。
- (I委員) たくさんの意見がある中、人件費の削減なくして再生はないと考える。優先順位をつけながら核心に触れて行きたい。議会も財政の危機状況を感じてもらいたい。
- (E委員) 人件費について単に10%カットというのは簡単だと思うが、ラスパイレス指数等が高いというわけでもない。例えば補助金に対する事務や会計について住民の自立を促して職員の手から離すなど、事務事業、人員配置を見直すことで、現在委託している先に職員を配置すれば、間接的に委託費を削減できるのではないか。
- (G委員) 短期的な個々の職員の人件費カットということではなく、職員の定数管理などの機構改革を人件費の削減に繋げる、という様に長期的に考えていく必要があると思う。
- (H委員) 例えば人件費に着目するなら、確かに人員は多い。すぐに手を付けるとすれば今年の冬のボーナスから行けるのではないか。

(A 委員) あくまでも今 15 億円削減しないと潰れてしまう、という前提で管理職 10% 一般職 5% のカットという案を出したが、人員を減らす方が大変だと思うのでとりあえず給料を減らして、3 年後に乗り切ってから回復させるというようにしないと、じっくり考えて潰れてからでは遅い。10% がいいのか分からないが、カットしやすいと言われながらできていない項目である。他の自治体では職員組合との相談の上で、ひとまず乗り切るためにカットしている例もある。

ところで、55 億円の公債費があるが、金利の変動などに合わせて借り換えなどはできるのか。

(B 委員) 基本的に 15 年間で完済するように固定されている。

(議 長) 人件費に関して、短期的にも長期的にも取り組み方や、皆さんの考え方の幅はそれぞれあると思うが、まず短期的に取り組む課題のひとつに取り上げることとしてよいか。

(A 委員) 職員の実情を聞く機会も欲しい。例えば、フレックスタイムの導入ができれば市民サービスも向上するし、人件費も削減できると思うが、本当に実現可能か、数字だけではわからないので現場に近い職員と意見交換したい。

(H 委員) 改革案を市民会議の委員の意見だけで決めてしまう方法もあるが、職員組合や管理職、市議会議員の意見や考えを出してもらいながらまとめて行ければと思う。

(B 委員) 職員給与については、18 年度に地域手当のカットなどで実質 5% 以上下がったばかりなので、さらにカットとなると職員の中には「またか」と感じる者もいるだろう。

(副議長) 職員は危機感を共有しているのか。議員、市民ともに危機感を共有し、篠山市一丸となって取り組まなければならないと思う。

(B 委員) 大きな組織なので濃淡はあるが、職員の意識は高まってきていると感じる。ただ、危機感だけを煽ると職員も萎縮してしまうだろうし、篠山の値打ち、イメージが下がることも懸念される。

(D 委員) 煽る必要はないが、財政状況を数字で示すにしても、もし財政破綻したら、水道料金が上がり、公共交通がなくなってしまうかもしれないというような、具体的な説明をしていく方が、市民が理解しやすいと思う。

(A 委員) 例えば 15 億円を市民一人当たりになると月 3,000 円になる。それを税金で負担するのか、始末するのか市民にも考えてもらうきっかけになると思う。行政コスト計算書によると、一人あたり 41 万 7 千円かかっている。そういう状況を分かってもらい、本当に必要なものを考えてもらうことも大切だと思

う。

(議 長) 今後の議題に人件費を取り上げるとして、平行して、行政と住民が課題を共有するための情報提供の方法について議論してはどうかと思う。それと、職員との情報交換について挙がっていたが方法はあるか。

(事務局) 行政内部でも危機意識を持ちながら、各課の取り組み項目について8月末を目途に中間報告ができるよう、各課長が中心となって取りかかっている。事務局として出席しているのも職員だが、ほかに職員組合と意見交換するなど、やり方はあると思う。

(議 長) 意見交換の方法については、運営委員会で協議したいと思う。

(E委員) 補助金の見直しについて、補助額の一律カットという方法もあるが、それぞれの補助率を見直すこともできると思う。補助金の内容や補助方法がわかる資料が欲しい。

(H委員) 補助金についてはすべて洗い出す必要があると思う。一律にカットというのは乱暴だ。役割を終えたような事業は外していけばよいと思うが、本当に補助が必要な事業もあるし、地域によっても事情が異なる。

(副議長) 補助金の詳細を分かっていない者が、いきなり内容を検討して必要性を判断していくのは難しい。担当課で洗い出したものをたたき台にしてはどうか。

(A委員) すべてを精査して見直す時間的余裕がないので、当面はカットして、乗り切ったあとに長期的に見直しを考えていく、という方法もあるのではないか。

(D委員) すべての補助金の総額をカットしておいて、個々の団体への配分、内訳については担当課で検討してもらおうというのはどうか。

(事務局) 庁内プロジェクトチームにおいても補助金を検討項目に挙げているが、団体事務局を担当課で持っている、自らがカットしづらいということもある。

(E委員) 大阪府等では団体事務、ましてや会計事務を職員は担当しないよう指導されている。団体事務を市の職員が持つのはおかしいと思う。

(F委員) 補助金を例えば一律カットしても効果額は少ない。まずは聖域を設けずに人件費のほか、やろうと思えば削減が可能な項目の中で、効果額が大きなものから検討する方が効率よいのではないか。

(議 長) 短期的にするのか、長期的に取り組むのかで、同じ項目でもアプローチの仕方があると思う。

(副議長) 効果額は少なくとも、市民も意識を持てる項目として補助金にも取り組んではどうかと思う。

(I委員) 施設の維持管理についても、例えばチルドレンズミュージアムなど対象を

絞ってはどうか。

(H委員) 市民生活に直接関わらない施設で、お金を垂れ流しているものを見直すべきである。

(A委員) 施設について、採算がとれていないものは売却するなど、切るところは切らないといけない。どの施設を対象にするかはわからないが、例えばプールにしても市で運営する必要があるのか考えないといけないと思う。

(議長) 限られた時間の中で、効果の大きいものから取り掛かるということもあるが、これまで挙がったテーマのうち、短期的に効果がありそうなものを順番に並べて、物件費の賃金を含めた人件費の問題、補助金の問題、委託金の問題、施設の問題を取り上げていってはどうかと思う。中長期的な問題としては組織改革も取り上げたい。また、行政と市民が意識を共有し、意見交換できる手段を提案できないかどうか議論したい。

今回は人件費、賃金の問題について踏み込んで議論をしたい。事務局からどういった資料を提出してもらい議論を進めていくかは、今日出た意見、要望を元に運営委員会で協議したいと思う。

5 その他

(1) 次回の開催予定

(議長) 事前に各委員の日程を集約させていただいたが、次回第3回は8月24日(金)の13時30分から、市民センターで行いたいと思う。また、次々回第4回は、9月5日(水)の13時30分から、場所が変わるが丹南健康福祉センターで行うこととしたいと思う。了解いただいてよろしいか。

(委員) 異議なし。

(議長) では、準備を進めさせていただく。

(副議長) 人件費、補助金、委託料、施設管理と具体的な項目が出てきたが、今日は委員の皆さんにたくさんの意見を出していただいている中、ほんの一部しか議論できず、消化不良というか物足りない気持ちの方もおられると思う。次回からはより踏み込んだ、具体的な意見をいただき、提案ができるようみなさんと一緒にまとめていきたいと思う。

- 以上 -